

奇跡の一本松

陸前高田市の高田松原には、3・11の東日本大震災による津波が押し寄せ
るまで、約2キロメートルにわたり約7万本もの松の木が植えられていました。

その素晴らしい景勝地が、一瞬にして大津波に飲み込まれ、たった一本の松
だけが倒れずに生き残りました。まるで絨毯爆撃にでも遭ったような凄まじい
廃墟の中に、忽然と立ちつくす姿は、まるで哲学者のようでさえあります。

日を得ずして人々は、その松のことを「奇跡の一本松」と呼び、復興のシン
ボルとなりました。存在することで、人々に生きる勇気やエネルギーを与える
ことが出来る、というのは凄いことです。「あなたが辞めれば巧くいく」とい
われ続けている、どこかの国のリーダーとは大分違いますね。

しかし、その「奇跡の一本松」は、津波によるダメージと塩害によって枯れ
ようとしています。このため、現地で採取した枝100本を台木に差し込んで
管理してきたところ、その内の4本に、接いだ部分から新しい芽が出ているの
が発見されたとのことです。地元の方々は、「復興の第一歩として夢を与えて
くれる」と喜びの声を上げています。元の姿に戻すには、気の遠くなるような
時間が必要ですが、広大な松林の再生の確かな一歩となったことは確かです。

更にいえば、新しい芽は命から命への繋がりでもあります。死者・行方不明
者が2万人に及ぶというあの震災の直後にも、新しい命が誕生しました。テ
レビの映像ではありますが、生まれたばかりの赤ん坊が母親に抱かれて眠っ
ている姿を見ながら、それが命の輝きだし、その存在こそ、被災された多くの方
々にとって生きる勇気と希望に繋がるだろうと強く感じました。

アンパンマンの原作者「やなせたかし」さんが「陸前高田の松の木はいのち
をつなぐ希望の木」と歌ったように、命と命の繋がりがある限り、高田松原は
もとより、福島も、宮城も、そして日本も不滅です。(塾頭 吉田 洋一)